

「藤樹かるた」の紹介⑤

(企画広報委員会)

(かるたと解説)

めんどうとも

め

思わず榎木へ 又左衛門

正直又左衛門が、お客の忘れ物の二百両を届けたお話。



み

道示す 人の生き方
「鏡草」

藤樹先生は「鏡草」の中で、さまざまな例え話を通して「孝」の大切さを説かれている。周りの人を愛し敬う心や、子どもに教える姿勢など、その内容には現在の生活にも当てはまることが多い。



し

じいさんと 米子へ
旅立つ 九歳の朝

藤樹先生九歳の時のことである。米子より休みをもらって小川村へ帰って来たおじいさんは、孫の立派な成長ぶりを見てたいへん感心された。そこで「このまま田舎においておくのは惜しい。米子へ連れて行って十分勉強させてやりたい。また、私の跡を継がせたい」と両親を説き伏せて、米子へ連れて帰られた。先生が学問と武士への道を進まれる転機となった意義深い出来事である。



え

永遠に 伝える教え
「五事を正す」

藤樹先生の教えによると五事を正すとは「貌・愛敬の心を込めてやさしく和やかな顔つきで人と接しましょう。言・温かく思いやりのあることばで相手に話しかけましょう。視・愛敬の心を込めて温かいまなざしで人を見、ものを見るようにしましょう。聴・相手の話に心をかたむ

けてよく聞くようにしましょう。思・常に善の心、愛敬の心を持って視聴言動することを中心かけましょう。」を意味する。

え



ひ

ひとすじに 今日も独学
「四書大全」

藤樹先生は、学問を始めるにあたり、まず、中国の四書大全(大学、中庸、論語、孟子の四種の参考書)を独学で、理解できるまで何十回と繰り返し読まれた。



藤樹書院・良知館通信⑭

聖人について

藤樹書院 志村 洋

藤樹先生は今も近江聖人と崇められています。江戸時代の儒学者で聖人と呼ばれたのは先生ただ一人だという人もおられますので、聖人とはどういう人なのか考えてみたいと思います。

広辞苑は、

「知識最もすぐれて万事に通達し、万人の仰いで師表とするべき人(人の師となつて手本となる人)。儒教の理想とする人物。中国で堯・舜・孔子等の称。聖者。ひじり。(用例として)

聖人に夢なし 聖人は心正しく雑念がないから夢を見ることがない。

聖人は物に凝滞(とどこおる)せず

聖人は時勢と共に推移して物事を処理するから、執着(思い込み)・拘泥(こたわり)して苦しむことがない。

聖人にまみえず 聖人は直接人に接する必要がないの意。」

儒教の理想とする人物を堯・舜・孔子等としています。夏、禹王・殷、湯王・周、文王・武王・周公も

藤樹かるた制作委員会委員

- 足立清勝・飯田典子・石黒紀代子・北川暢子・清川貞治・高谷美智子・山本義雄 (五十音順)